

「バクトペプトン」水の培養試験を見る時は分離菌は何れもゲルトネル氏腸炎菌 Jena型に一致するを認めたり。

質 問

磯 田 仙 三 郎

その菌に就て淋巴肉芽腫との原因的関係があるか否かに就いては御調べ下さらなかつたでせうか。

應 答

良 田 圭 子

肉眼的には淋巴肉芽腫は認められませんでした。が詳しい事はしらべてみませんでした。

「マウス」に対する色素の光力學的作用(第二報)

東京女子醫學専門學校細菌學教室

佐 山 楓

余は色素の光力學的作用の腸「チフス」菌「レツェプトール」に及ぼす影響を凝集反應に依り觀察せるを以て茲に第二報とし實驗方法及成績を簡単に報告せんとす。

實驗及成績。實驗に用ひし菌株は千葉W, 佐藤VW, 飯村Vi, 飯村Lsy, 岡崎V, の五株にして何れも北里研究所より分與せられたるものなり。千葉菌株はH, O, を佐藤, 飯村(Vi, Lsy), 岡崎の四株はH, O, Viの「レツェプトール」を有する菌株なり。

凝集反應。實驗動物は家兎。免疫に用ひたる菌株は千葉W, 飯村Vi, 飯村Lsy, 岡崎Vの四株にして、色素の光力學的作用により死滅せる菌、對照として非加菌、百度加熱菌にて免疫せり。菌は何れも二十四時間培養の菌苔にして1cc 1mgの割合に生理的食鹽水に浮遊せしめたるもの、加熱菌液は前と同様の菌浮游液を重盪煎にて攝氏百度に一時間加熱したるものなり。色素の光力學的作用により死滅せる菌液は前と同様の菌液に「メチレン」青を蒸餾水で千倍に稀釋したるもの及「ブイオン」を菌液 5ccに對し1滴の割合に加へ、之れを試験管に分注し反射鏡を有する集光「レンズ」の上に置き百「ワット」の電燈を凡そ10cmの距離から二時間三十分照射す。實驗中は扇風機を用ひ菌液の加熱せられる事を防止せり。注射は家兎耳靜脈に間隔は四日乃至五日、三回注射、最後の注射より九日或は十日目に全採血なせり。菌浮游液は五株の菌を用ひ非加熱菌加熱菌の二種を用ひたり。凝集反應成績は各菌株の生菌免疫血清と、色素の光力學的作用により死滅せる菌により免疫血清に對する各菌浮游液の凝集状態は殆んど同様に兩血清共千葉生菌を完全に凝集し、佐藤VW, 飯村Vi, 飯村Lsy, 岡崎V生菌を不完全に凝集せり。凝集状態は千葉生菌は雲狀に、佐藤VW, 飯村Vi, 飯村Lsy, 岡崎V生菌は雲

濁状を示し、加熱菌浮游液は各株の非加熱菌免疫血清、加熱菌免疫血清、色素の光力學的的作用により死滅せる菌による免疫血清により略同様に凝集され、凝集状態は顆粒状を呈せり。尙ほ色素の光力學的的作用により死滅せる菌の免疫血清中に於ける H 及 Vi 「レツェプトール」に對する凝集素の存在を確めんと欲し、飯村 Lsy, 飯村 Vi 菌の色素の光力學的的作用により死滅せる菌の免疫血清に就て カステラニ 吸収試験を行へり。

カステラニ 吸収試験。免疫血清は上に述べたる飯村 Lsy, 飯村 Vi, 免疫血清, 吸収菌液は千葉の非加熱菌, 加熱菌の二種。吸収方法は安住氏に依る。吸収の結果は飯村 Lsy, 免疫血清を千葉加熱菌液で吸収せる時即ち O 凝集素を吸収せる血清は八百倍稀釋に於ても H 「レツェプトール」を有する千葉非加熱菌を凝集するを認めたり。更に千葉非加熱菌にて吸収せる場合即ち H, O 凝集素を吸収せる血清は Vi 「レツェプトール」を有する飯村 Lsy 菌 飯村 Vi 菌, 岡崎 V 菌を各四百倍まで佐藤 VW 菌を二百倍まで凝集するを認めたり。飯村 Vi 免疫血清は吸収試験の結果 H 凝集素を認めたるも Vi 凝集素を認むること能はざりき。依つて色素の光力學的的作用により死滅せる菌による免疫血清中には Vi は不定なるも H, O の凝集素は常に存在するを認めたり。

ウエルシュ, フレンケル氏瓦斯壞疽菌の 生物學的並に免疫學的性狀に就て

(原著發表の豫定)

東京女子醫學專門學校細菌學教室

中 西 清 子

本菌が ウエルシュ, フレンケル 兩氏によつて發見せられて以來諸學者による本菌研究は實に少くないが併し今日猶本菌の菌型に關しては判然としてゐない。私は多數の本菌菌株を蒐集し其に就て實驗を行ふならば或は菌型分類に資するかと思ひ此實驗を行つた。實驗材料の菌株としては本校の夏期無料診療に於る寄生蟲卵検査の際の糞便から分離した 121 株を用ひた。先づ生物學的性狀より述べると本菌の形態並に染色に於ては普通「ア」色素に良染し、グラム陽性、兩端僅かに鈍圓な稍々大なる桿菌で排列状態は多く孤立し散在し時には連続するものもある。鞭毛を認めず。莢膜を動物體內で生じ芽胞は橢圓形、中在性である。本菌の實驗に當つての培養方法は Schoetensack 氏法 Tarozzi 氏肝臟「ブイオン」法、「パラヒン」重疊法、及減壓法等を場合に應じて用ひた。本菌は普通寒天には發育不良であつて稍々不透明の黄白色の集落を生ず。Tarozzi 氏肝臟「ブイオン」に於ては非常に發育旺盛で盛んに瓦斯を發生し液は強く濁濁